

和泉地区副所長〔副所長所見・和泉地区〕

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報科学センター 公開日: 2012-05-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 和田, 悟 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/12005

〔副所長所見・和泉地区〕

和泉地区副所長・和田 悟

和泉地区では、2005 年オープンに向けて、新教育棟（和泉メディア棟）の建築が進められている。現在、第一校舎地下にある情報科学センターの施設設備は、「メディア教室」「メディア実習室」として、他の情報施設を備えた教室とともに、この新教育棟に移設され、また語学対応教室が新設され、全体として情報施設が拡充されることになる。

これにともない、情報教室・実習室は、学部間共有施設としての性格を一層強めることになる。もちろん、情報科学センターの施設・設備は、これまでも学内共有施設であり、鈴木前副所長時代から、そのように強調されてきた。しかし、これら情報教室・実習室利用は、実際には、情報科学センターが実施する情報教育の授業コマで占められてきた。高まりつつある語学教育や学部独自の情報環境利用に対する要望に十分に答えきれていなかった。この状況は、メディア棟ができることで一変するだろう。施設拡充により、教室事情は格段に改善されるからである。施設利用における情報科学センターの科目が占める割合も減じることになり、施設設備の割り振りを情報科学センターが仕切るという従来のあり方が馴染まなくなってくる。情報科学センターもメディア棟施設の一利用者となり、施設利用について学部等との調整を、和泉マルチメディア委員会に委ねてゆくことになる。

こうした状況の変化のもたらす影響は、単に施設運用の側面に及ぶばかりではない。従来、情報科目のために雇用していたアシスタントも、和泉の情報施設利用全体の観点から見直さなければならないであろう。また、施設運営は、これまで、情報科学センター専任教員が情報システム事務部とともにコアとなって他キャンパスとの調整を含め、日常的な検討に加わって来た。専任教員不在での委員会による運営を念頭においた運営のあり方も考慮しなければならないだろう。現在、全学規模でも教育の情報化の推進方が検討されているとのことである。その方向性を伺いながら検討を進めることにしたい。